

再々疎開の直前 玉音放送聞く

無職 仲田 節子

(東京都 92)

終戦の日を私たち東京都仰高西国民学校の学童疎開児は、長野県上田市のお寺で迎えた。上田も空襲に脅かされるようになり、その日、山奥の別のお寺に再々疎開するため、荷物を運ぶことになっていた。

すると「正午に天皇陛下の放送がある」ということで、ラジオのある家で聞かせてもらうことになった。よく聞き取れなかったが、寮長先生が「残念ながら日本は負けた」と説

明してくれた。寮母さんたちは泣いていたが、私たちは「ようやく家に帰れる」と思っただけだった。

だが私たちの町は4月、空襲に遭っていた。母は父と家を失い、命がらから親戚宅に転がり込んでいた。同じ境遇の仲間と、そのまま上田の寺に置いてもらうことに。町の人々は親切で、翌年3月に戻るまで、みそやしょうゆをくれたり、家に招いて昼ご飯を食べさせてくれたりした。毎年、終戦の日を迎えるたび、感謝の思いで手を合わせている。